

アルコール製品に関するよくあるご質問

新型コロナウイルスによる感染防止対策として、消毒剤等の需要が急激に増加しております。その影響によりアルコール製品に関するお問い合わせも増えておりますので、よくあるご質問の一部をご紹介します。

Q1.使用期限が切れた製品は使えますか？

A1.製品の有効性と安全性が担保されておりませんので、使用期限が切れた製品のご使用はお控えください。

Q2.アルコール製品を別の容器（他の製品容器等）に詰め替えて使用してもいいですか？

A2.小分けする容器は、メーカーの注意事項等を確認し、アルコール対応のものを使用しても良いとされています。アルコール対応の容器かどうか、ご確認ください。

小分けする際に容器が入手できない場合には、手指消毒用エタノール用に使用されていた容器を水道水で洗浄し、清浄かつ破損・劣化がないことを確認の上、手指消毒用エタノール用として再利用して差し支えないとされています。

【参考】厚生労働省事務連絡「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う薬局等での高濃度エタノール製品の取扱いについて（改定）」（2020年4月22日付）<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000624093.pdf>

Q3.エタノールとイソプロパノールの違いは？

A3. エタノールとイソプロパノールは同じアルコール系消毒剤ですが、有効な微生物の種類、毒性などに違いがあります。細菌に対する消毒効果はほぼ同じですが、一部のウイルスに対してはエタノールのほうが有効とされています。また、イソプロパノールはエタノールに比べて脱脂作用が強く、特異な臭気があります。

【回答補足】

Q. 消毒用エタノールとイソプロパノールの殺菌効果・ウイルス不活化効果の違いは？

A. 一般細菌については、消毒用エタノールと70%イソプロパノールでは多少70%イソプロパノールの方が殺菌効果が強いものの、ほぼ同程度の効果があります^{1,2)}。50%イソプロパノールはMRSAの殺菌に30分と長時間必要とする報告もみられます¹⁾（短時間で殺菌される報告も見られます）。そのため、殺菌効果を考慮するとイソプロパノールの消毒濃度は70%を基本とすべきです。

ウイルスについては、エンベロープを持たないウイルス（コクサッキーウイルス、アデノウイルス等）ではイソプロパノールは消毒用エタノールと比べて効果が劣り、*in vitro* 試験の報告では60分の接触時間で供試ウイルスのほとんどが不活化できていません³⁾。

【参考資料】

- 1) 坂上 吉一、他：防菌防黴 1994；22（8）：469－74. 【IC05403】
- 2) 坂上 吉一、他：防菌防黴 1997；25（2）：65－72. 【IC02907】
- 3) 野田 伸司、他：感染症学雑誌 1981；55（5）：355－65. 【IC09418】

Q4.消毒用エタノール「マルイシ」を薄めて使用できますか？

A4.消毒用エタノール「マルイシ」は、消毒効果が最も発揮される 76.9～81.4vol%にエタノール濃度をあらかじめ調製したものです。これを薄めてしまうと消毒効果が減弱しますので、薄めずにご使用ください。

Q6.無水エタノール「マルイシ」、エタノール「マルイシ」はどのように使うのですか？

A6.下記の通り希釈してご使用ください。

製品名	100mLを調製する場合の希釈方法
無水エタノール「マルイシ」	無水エタノール 80mLに精製水を加え、全量 100mLに希釈してご使用ください
エタノール「マルイシ」	エタノール 83mLに精製水を加え、全量 100mLに希釈してご使用ください。

注：なお、手術野、創傷面等以外の一般的な手指・皮膚の消毒に使用する場合は、精製水の代わりに水道水で薄めても差し支えありません。

【参考】厚生労働省事務連絡「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う薬局等での高濃度エタノール製品の取扱いについて（改定）」（2020年4月22日付）<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000624093.pdf>